

元戦車中隊長の模型部屋 第1回

皆様こんにちは。高田駐屯地業務隊で勤務している齊藤と申します。出身は上越市です。

小学生の頃から戦車が大好きで、昭和62年に自衛隊に入隊し、念願の機甲科隊員として教育を受け、北海道に配置されている自衛隊唯一の機甲師団である第7師団の第71、72、73戦車連隊、第7偵察隊と同師団全ての戦車部隊で勤務しました。戦車部隊勤務の最後は北部方面隊直轄部隊の第1戦車群第303戦車中隊長（第1戦車群は平成26年に廃止）を務め、22年間にわたる北海道勤務に別れを告げ、群馬の第12旅団司令部、新潟地方協力本部を経て、現在の職務についています。

新潟地方協力本部勤務時に、「高田所長の模型部屋」「募集班長の模型部屋」「高田援護室長の模型部屋」と名前を変えながら私が乗ってきたり一緒に訓練してきた戦車や装備品、諸外国や昔の戦車などの模型を紹介させていただき、1年前に最終回を迎えましたが、是非再開して欲しいとの皆様の声をいただき、この度、「元戦車中隊長の模型部屋」として名前だけリニューアルして再開することとなりました。

今後ともお付き合いの程、よろしくお願いいたします。



さて、今回紹介させていただく戦車は・・・



89式中戦車甲型 です。

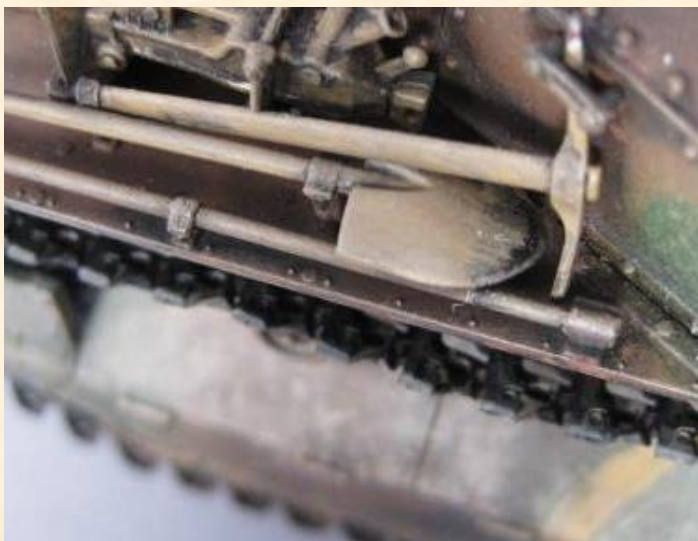
89式中戦車は大日本帝国陸軍で開発・採用された日本初の国産戦車です。ガソリンエンジン搭載型が甲型、「高田援護室長の模型部屋（第7回）」で紹介した乙型はディーゼルエンジン搭載型となります。詳しい性能等はネットでどうぞ。

リベット止めの装甲車体が歴史を感じさせます。満州事変から終戦まで使用された戦車です。今回は「軍神」として有名になった西住小次郎大尉の愛車を製作しました。西住大尉は日中戦争で活躍された方で、軍規に厳しいが平素は部下思いな方だったそうです。





車体後部そり部には別売りの装具セットを搭載しました。各種箱や毛布類は一つ一つ色を変え、アクセントをつけました。最後にタコ糸で縛着してます。



マフラーはグリルで隠れてよく見えませんが、焼鉄色で塗装した後、パステルコンテの茶色を粉末にして塗りつけてサビを表現してます。そしてスコップは使用して塗装が剥がれた表現を再現。先の地金はGS1クレオスのメタルカラー（ダークアイアン）を塗って、乾いた後に綿棒で磨いてます。どうでしょうか？



履帯はモデルカステンの連結式を使用。左右で約160枚！悟りを開きます。しかし、この自然な撓みが出るのは連結式ならではです。フラットブラックを塗装した後に先述のメタルカラーをこすりつけてます。起動輪、誘導輪の「歯」の部分も履帯と擦れて地金が出るので、同様の処置を施してます。



砲塔ハッチからは砲尾部が見えます。ハッチは指定色のホワイトとしてますが、後にカーキ色で偽装されたと思います。



同スケールの95式軽戦車と日本陸軍歩兵と並べて・・・



蘇州河畔、敵発見！
注意されたし！



かつての戦場を再現してみます。映画のワンシーンみたいでしょ。私の娘達は横で相変わらず嘲笑ってます。では、今回はここまで。次回もお楽しみに！